

プロジェクト名： **MI理論による子どもの認知的創造性の可視化と「評価」の研究**
—埼玉大学附属小・中学校での授業の実践を対象として—

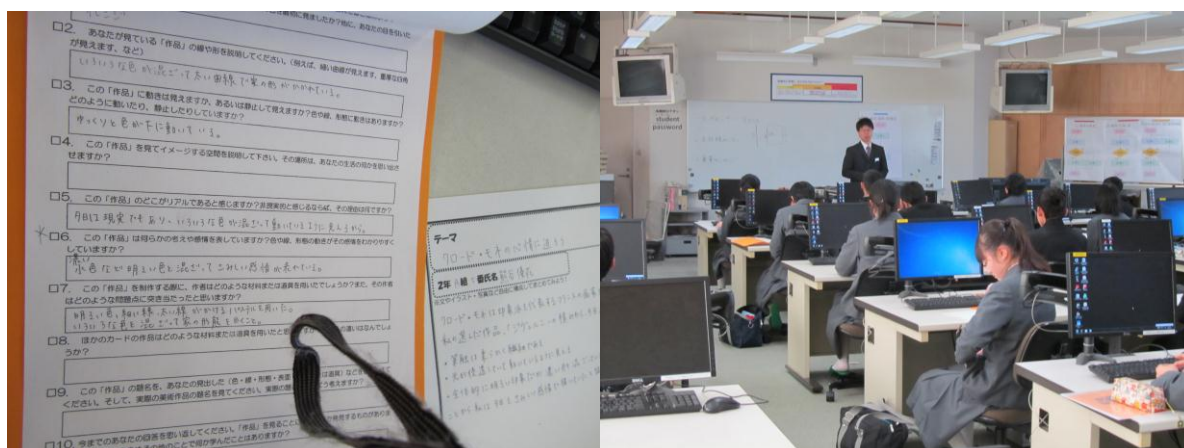
代表者： **池内 慈朗**（所属・職名）教育学部・教授
共同研究者： **高須賀昌志**（所属・職名）教育学部・教授
共同研究者： **松村暢隆**（所属・職名）関西大学・文学部・教授
共同研究者： **武田圭介**（所属・職名）教育学部附属小学校教諭（図工科）
共同研究者： **高藤友輔**（所属・職名）教育学部附属中学校教諭（美術科）

1 目的

本研究は「外部資金獲得促進研究」であり、代表者：池内 慈朗はH25年度、「**科研費補助金C**」を獲得できたことが成果であり、「外部資金獲得促進研究」に採択して頂いた感謝を述べたい。本研究では、ハーバード・プロジェクト・ゼロを率いるハーバード大学のハワード・ガードナーの世界的に受容されている**多重知能理論**（MI理論：知能は8つあるとする）を、実際の学校で授業に活かし、**<MI理論の実践>**による**<個性>**と**<ユニークな発想>**を育む教育を目的とした「エントリー・ポイント」を用いた「授業」を考案し、「授業」の実践を附属小学校で実践を行うことを目的とした。

2 方法と実施内容

知能の組み合わせによって興味の持ち方が異なるという点に着目した「エントリー・ポイント」（学習の入り口）を用いた実践を行った。その“子どもたちの認知特性（認知パターン）”であるエントリー・ポイントの概念は、(a)物語の窓、(b)理論・数量の窓、(c)基礎的な窓、(d)美的な窓、(e)経験の窓、という5つである。昨年度の本プロジェクトを基に関西大学、松村暢隆教授の協力のもと、わが国に適合したMI理論の実践による個性とユニークな発想を育む教育を目的とした「授業」を考案し子どもたちの経過を調査した。



(附属中) エントリー・ポイント「美的な窓」の質問 作家、作品、その時代、環境を調べていく



(附属小) 電子黒板、タブレット端末を用いたドキュメンテーション化

研究方法は、エントリー・ポイントを用いて、興味の入り口から入って“作品”に至る過程の可視化により以下の分析方法を用いた。「創造性を培うこと」を教科の中、必然的に“結果”生徒が授業題材を課され①、観察(調査)②、探究(思考錯誤)③、結実(作品化)④、という一連の作業の各過程を記録し、①当初ビジョンと最終的な結実との“ズレ”。②思考(イメージ)変遷。③ビジョン転換の瞬間の自覚化。といった項目について、創造の生成の実態を、教育現場でドキュメンテーション(記述/ビデオ/デジタル動画)の対話記録をおこなうことによって分析・検証し明らかにした。

3 成果

本プロジェクトの成果として、MI理論の実践として「エントリー・ポイント」(学習の入り口)を用いた授業を試験的に附属小・中学校での勉強会、討論をへて上記の研究方法を検証し、最終成果の実施方法として附属小・中学校にて実践発表会を行った。平成25年2月20日、教育学部附属小学校において調査担当者として武田圭介先生の協力の下、研究授業を行った。また、平成25年3月11日、教育学部附属中学校においても高藤友輔先生の協力の下、研究授業を行った。特記すべき点は、“興味をもつ個々の学習の入り口、明らかな個人々の<認知>のスタイルの違いからくる子どもたちの認知特性(認知的個性のパターン)”が明らかになった。

本研究代表者たちは、「創造性」「認知的個性」という観点を核に据えて、具体的な教科内容を明文化していく作業をおこなってきた。この基礎的研究によって、代表者：池内 慈朗、H25年度、「科研費補助金C」を獲得できたことである。

研究協力者・高須賀は、市民との美術活動が盛んである十和田市現代美術館・十和田市役所教育普及課を訪問し、エントリー・ポイントの活動の資料収集を行うなど、今後の将来的発展を考えた調査を行った。

今後、これらの成果を基に、昨年度の本プロジェクトによってわが国に適合したMI理論の実践による個性とユニークな発想を育む教育を目的とした「授業」を考案し子どもたち(現在附属小6年生)の経過を調査していく。今後、海外のMI理論研究者との共同研究の可能性は非常に高く、プロジェクト・ゼロとの協同研究の可能性もあり発展するであろう。